

年頭のご挨拶



奥出雲町長 糸原 保

新年あけましておめでとございます。町民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

昨年を振り返りますと、元日に発生した能登半島地震は多くの人的被害をもたらし、今もお復旧活動が続いております。防災や社会資本整備、国土強靱化の重要性を強く認識させられた年でありました。

町内においては6月に約40年間日刀保たら村下として活躍になり本町の発展にご尽力いただいた木原明様、そして10月には亀嵩ご出身で、ふるさと奥出雲の振興と発展のためにご尽力いただいた若槻一夫様と、お二人の名誉町民の方がご逝去されました。お二方のこれまでのご功績に感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

次に観光においては、トロッコ列車「奥出雲おろち号」に代わり昨年4月から観光列車「あめつち」が木次線への乗り入れを開始しました。町民の皆様のご尽力により年間を通して様々なイベントや地域行事も開催され、県内外から多くの方に足を運んでいただき大いに賑わいました。

また、ホッケー競技においては、パリ五輪での町出身選手や指導者の活躍をはじめ、インターハイでは横田高校男子が優勝、国民スポーツ大会では島根県少年女子が準優勝、ホッケー日本リーグにおいては「セルリオ島根」がサムライリーグ1部への昇格を果たすなど、全国で活躍されております。

奥出雲町は2030年に島根県で開催される国

民スポーツ大会ホッケー競技の会場に決定しておりますので、引き続き競技力の向上と環境の整備を進めてまいります。

農業分野では、奥出雲仁多米が米・食味分析鑑定コンクール国際大会で8年連続14回目の最高峰金賞を受賞しました。持続可能な米づくりのため、スマート農業についての情報提供や仁多米の更なるブランド化を進め、農家の努力が報われる農業を目指します。

小学校再編につきまして、4月には新横田小学校がスタートします。仁多地域につきましては3月に1年前倒しで高尾小学校が閉校し、令和8年4月の仁多小学校開校に向けて新小学校の建設や整備など着実に準備を進めてまいります。

また、町では子どもを安心して産み、育てることができるまちを目指し、誕生時と小学校入学時に10万円の商品券を交付する「まちごと子育て応援金」や保育料の無償化、18歳までの医療費無償化など様々な子育て施策を推進しております。

「子育てするなら奥出雲」と思っていただけけるよう第3期子ども・子育て支援計画の策定に着手するほか、移住定住対策として「25歳同窓会」「Uターン応援金」など新たな施策にも取り組んでおります。

奥出雲介護老人保健施設につきましては、3月をもって事業を廃止することとしております。入所者の皆様には引き続き安心して過ごして頂けるよう新たな入所先の調整を行っており、奥出雲病院の介護医療院の増床や、老健通所リハビリテーション廃止に伴うデイサービスの再開に向けての

準備をしております。また、奥出雲病院3階病棟51床については、来月より休日においてもリハビリや栄養指導などを受けることの出来る「地域包括医療病棟」に転換するべく準備を進めており、奥出雲病院を中心とした医療と介護の提供体制を確保して参ります。

人口減少と少子高齢化は、国はもとより奥出雲町では、益々深刻な状況であります。奥出雲創生」に町民の皆様とともに一層頑張っていく所存です。

奥出雲創生とは、町民の皆様、町を応援頂く皆様と一緒に奥出雲の伝統・文化・地域資源など最大限尊重し守りつつも、子育て応援、環境政策、SDGs、デジタル化など新しい考え方も取り入れて、住みよい社会に変えていくことだと考えております。総力戦のまちづくりを使命感と情熱をもって推進してまいりますので、町民の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、已年は力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年と言われています。本年が皆様にとりまして明るく希望に満ちた幸多き始まりの年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



激励式が行われました

第56回
全国高等学校選抜ホッケー大会

12月20日から
25日にかけて
岐阜県で開催

2025年 スペシャル
オリンピックス冬季世界大会
アルペンスキー競技

3月8日から16日にかけて
イタリアトリノで開催



横田高校女子ホッケー部主将
と
藤田ゆらさん

横田高校男子ホッケー部主将
と
戸屋響哉さん

出雲養護学校雲南分教室1年
と
上田千笑さん

粘りのホッケーで笑顔で終われるよう精一杯頑張りたいと思います。

二冠目そして3連覇を目指し、いい形で今年を締めくくり来年のチームに繋げたいです。

初めての世界大会なので、一生懸命頑張っ滑りたいです。

12月16日に、役場横田庁舎で世界大会及び全国大会出場の激励式が行われ、選手たちが意気込みを述べました。

選抜ホッケー大会 結果速報!

男子ホッケー部は準々決勝で丹生高校(福井県)に0-2で敗れ、女子ホッケー部は準々決勝で岐阜各務野高校(岐阜県)に0-5で敗れました。男女ともベスト8という結果になりました。

第7位入賞! 第33回 浜田ー益田間駅伝競走大会 (しおかぜ駅伝)



▲奥出雲チーム第7位 (2時間9分15秒)

師走の石見路を駆ける第33回浜田益田間駅伝競走大会が12月8日に浜田市・益田市で開催され、県内の各地域から34チームが出場し熱戦を繰り広げました。奥出雲は地元中学生、大学生(ふるさと選手)、一般で構成されたチームで参加し、第7位入賞を果たしました。ゴール地点には、選手たちの力走を称えようと多くの人が集まり、熱い声援が響き渡りました。

8年連続14回目金賞!

第26回米・食味分析鑑定 コンクール国際大会

第26回米・食味分析鑑定コンクール国際大会が12月6日から7日にかけて山梨県北杜市で開催され、全国・海外から4736点の米が出品されました。食味値・味度値による1次審査を通過した米は炊飯され、「外見・香り・粘り・堅さ・うま味」を基準とする最終審査によって賞が決定されました。

国際総合部門には4373点が出品され、43点による最終審査の結果、「奥出雲仁多米株式会社 おいしい仁多米をつくる会」のコシヒカリが8年連続14回目となる最高峰の金賞を受賞しました。奥出雲仁多米(株)の藤井部長は、「全国的に高温による米の品質低下が懸念されているが、良質米の産地として知ってもらえる良い受賞だった。今後も農家の皆さんの励みになるよう、仁多米の良さを広めていきたい」と話されました。

今回の受賞により、「仁多米」の品質の高さと美味しさがあらためて認められ、国内外に広くPRすることができました。



▲奥出雲仁多米(株) 藤井部長(右)